

掛川市・袋井市 新病院建設だより



October 2012 Vol.13

新病院の体制整う

～医師・看護師確保に目処～



両市長あいさつ



掛川市・袋井市
新病院建設事務組合
副管理者
掛川市長 松井二郎

建設現場では新病院「中東遠総合医療センター」の姿が現われ、いよいよ開院に向けたラストパートの時期となりました。
中東遠総合医療センターは、両市民の期待を背負い、さらには中東遠地域の基幹病院としての使命を果たすため、病氣治療は勿論、災害時には命を守る拠点病院となることを確信しております。
両市民の皆様には、この新しい病院を自分ごと、家族の健康を命を守る壁として、是非とも育てていただきたいと強く願っています。



掛川市・袋井市
新病院建設事務組合
管理者
袋井市長 原田英之

皆様のおかげをもちまして、新病院の建設も順調に進んでおり、建屋最上部には中東遠総合医療センターの看板も掲げております。また、医師等の確保につきましても、関係の皆様のご尽力もあって、概ね目処がつかしました。現在、来年5月の開院を目指し、最終的な調整作業を進めております。
「中東遠総合医療センター」の大きな特徴は、①救急医療の体制の強化、②脳・心臓血管内治療センターの開設です。これにより、心筋梗塞や脳卒中などの循環器系疾患や脳疾患に24時間体制で対応が可能となり、この地域におけるその機能と役割に大きな期待が持てます。
掛川・袋井両市民の皆様への安心と質の高い医療が提供できるように万全を期してまいりますので、今後ともご支援とご協力をお願いいたします。

市民植樹祭を行います



新病院の建設地で、両市民による植樹祭を行います。
自分たちの手で新病院を緑あふれる病院にしませんか。
当日は、病院見学会（外観とホスピタルモール）も併せて開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

■日時 平成24年10月27日(土)
午後1時30分から
雨天決行

■服装等 長袖・長スボン、運動靴、帽子、タオル、軍手、移植コテ、水筒、雨具

■申し込み 問合先
○掛川市地域支援課みどり推進係
0537-211150
○袋井市企画政策課企画係
0538-443105

ボランティア募集

あなたもぜひ、中東遠総合医療センターで、ボランティアとして活動しませんか。

ボランティア募集内容

- ・車椅子の移動介助
- ・院内の案内
- ・草取りや簡単な清掃
- ・図書の手配
- ・その他



短期間でも結構です。
病院ボランティアに興味のある方はぜひ、組合までご連絡ください。

組合議会

	内容
第2回(臨時会) 6/29	1 監査委員の選任 組合議員選出の監査委員に永田勝美議員が新たに選出されました。
	2 新病院建設工事請負契約の締結 契約金額(税込み) (1) 保育所・保管庫 3億 975万円 (2) 外構-1 4億7,670万円 (3) 外構-2 2億1,000万円
	3 医療機器等購入契約の締結 契約金額(税込み) (1) 血管造影X線診断装置(アンギオ)および循環器用コンピュータ断層撮影装置(CT) 6億929万9,250円 (2) 磁気共鳴画像診断装置(MRI) 3億 1,320万円
第3回(定例会) 8/29	1 平成23年度組合会計決算の認定 歳入 28億8,235万 10円 歳出 28億8,000万7,660円 差引 234万2,350円 (平成24年度に繰り越します。) 【主な事業】 ・新病院建設工事 ・運営システム計画等策定支援業務
	2 平成24年度組合会計補正予算(第1号) 歳入 市負担金 234万1千円の増 繰越金 234万1千円の増 組合債 5億5千万円の増 歳出 建設事業費 5億5千万円の増
	3 医療機器等購入契約の締結 契約金額(税込み) (1) コンピュータ断層撮影装置(CT) 2億4,029万1,975円 (2) 透視部門機器 1億8,375万円 (3) 厨房機器 1億1,445万円

■申込方法
申込書に必要事項を記入の上、次の窓口へお申し込みください。
(直接申し込みの場合)
・新病院建設事務組合
・掛川市立総合病院経営企画課
・袋井市民病院管理課 のいずれか
(郵送、FAX、メールで申し込みの場合)
・新病院建設事務組合
※申込書は組合のみ
※申込書は両市にあります。
※組合ホームページからもダウンロードできます。



掛川市・袋井市新病院建設事務組合

〒436-0043 掛川市大池2798番地の11(掛川市勤労者福祉会館内)
TEL.0537-61-2700 FAX.0537-61-2701
ホームページアドレス http://www.shinbyoinkyogijp
Eメールアドレス byoken@city.kakegawa.shizuoka.jp

平成24年10月1日発行

この広報紙は資源リサイクル推進のため、再生紙を利用しています。

新病院が取り組む医療



「めざせ、健康長寿！
〜脊椎・脊髄センター開設に向けて〜」

掛川市立総合病院
副医務局長 浦崎 哲哉 医師

皆さん、ロコモティブ・シンдрームという言葉をご存知ですか？

高齢になると骨、関節、筋肉などの運動器の動きが衰え、日常生活の自立度が低下します。運動器の障害のために要介護になり、要介護の危険度が高い状態をロコモティブ・シンдрーム(以下「ロコモ」)と言います。

介護が必要な期間を長く生きると、自身にとても家族にとっても辛いものです。介護を必要としない長寿、つまり健康長寿をめざすためには、ロコモの予防とロコモの原因となる病気の治療が必要です。

ロコモの3大原因は、年齢からくるバランス力の低下、筋力の低下、および骨や関節の病気です。ロコモの予防にはロコモチェックを行い、ロコモアレーニングと言われる運動を続けることです。また、ロコモをきたす背骨の病気がある場合は併せて治療する必要があります。ロコモをきたす代表的な背骨の病気に脊柱管狭窄症や骨粗しょう症性脊椎圧迫骨折があります。これらの病気の治

療はまず薬などによる保存療法を行います。歩行障害や足の痛み、しびれがある場合はMRIなどの検査を行い、病状によっては手術が必要とします。

手術には主にこの手術があります。1つ目は低侵襲手術です。体にやさしく患者さんの体に負担の少ない手術です。2つ目は脊椎インストゥルメンテーション手術といい、背骨をネジや金属で固定する手術です。

新病院の脊椎 脊髄センターでは、一般病院の手術に比べ低侵襲でかつ安全に行うことが可能になります。また、一般病院ではできないような高度な脊椎手術にも対応することができます。

この地域の方々が健康長寿でいられますように、安心して受診できるセンター作りを目指していきます。



「突然の胸痛！歩行時の足の痛み！
〜生活習慣病から忍び寄る動脈硬化で約4人に1人がなくなる時代〜
今、必要とされる全身のカテーテル治療とは？」

袋井市立袋井市民病院
循環器内科学部長 森川 修司 医師

当院循環器科では心臓は勿論のこと、全身の動脈硬化性疾患を診ています。脳血管疾患の31%、下肢の動脈硬化性疾患に関しては50%以上に心血管疾患が合併すると言われています。また、下肢の動脈硬化性疾患の予後は大腸癌より悪いことが明らかにされており、死因の多くは心血管疾患と判明しています。以上

のことから下肢や心臓だけでなく、全身の動脈硬化性疾患を診ることが非常に重要であると考え、当院循環器科では全身の動脈硬化性疾患の診療、カテーテル治療を行っています。カテーテル治療とは狭窄や閉塞した血管にワイヤーを通して、バルーンでの拡張やステントといった金属を留置し病変を拡張し血流を改善する治療のことを言います。

主には心血管疾患として狭心症や心筋梗塞へのカテーテル治療を行っています。狭心症は心臓の血管が動脈硬化で狭くなり心臓の筋肉に必要な酸素が供給されない状態、心筋梗塞は血管が閉塞し心筋が壊死する状態を言います。また歩行時の足の疲れ、痛みといった症状を伴

う下肢の閉塞性動脈硬化症、頸動脈脳への血管、腎動脈、鎖骨下動脈の狭窄・閉塞といった全身の動脈硬化性疾患に対するカテーテル治療も積極的にを行っています。

動脈硬化性疾患の大きな原因として高血圧や高脂血症、糖尿病、つまり生活習慣病があります。不適切な生活習慣を改善することが、心臓・脳・下肢等の動脈硬化性疾患を予防する第一歩となります。生活習慣病の改善は全身の動脈硬化性疾患にとって非常に大切であり、当科でも高血圧や高脂血症等の診療を行っています。

心筋梗塞や大動脈解離等の循環器疾患は1分1秒をあらそう生命に関わる疾患です。今後24時間、365日、迅速な診断、治療ができるよう体制を整えています。

我々循環器医は新病院でも全身のカテーテル治療を適切に行い、患者さんが最もHappyになることを最優先に考え、診療に携わりたいと思います。

主に整形外科、脳神経外科、神経内科の各科が連携し、脊椎(背骨)とその中にある脊髄(神経)に関する疾患に対応します。高度な治療を行うとともに、患者さんの身体への負担も少なく安全安心な治療を行います。

脊椎・脊髄センター

地域福祉推進の基盤としての期待

現在、掛川市が進めている地域包括ケアシステム「ふくしあ」への参画を始め、市社協は、地域福祉を推進する機関として活動しています。住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことを目指す地域福祉の実現には、公私を含めた様々な機関の参加・連携を必要とします。中でも、生命を守る医療の整備・充実が、安全安心な地域づくりの重要な基盤となります。

新病院が、市民の生命を守る機関として充実すること、地域包括ケア、地域福祉がより一層推進することを期待します。



掛川市社会福祉協議会
会長 小里 務 さん

気持ちよく受診できる病院に

新病院に期待することは、まず交通の便が良くなることです。高齢者にとっても分かりやすい、簡単に利用できる公共交通機関があるといいですね。袋井市内3か所から新病院までバスが通ると聞き、とても安心しました。

もう一つは、受診するときに医師や看護師などスタッフの皆さんが温かく患者さんを迎えてくれることです。患者さんの不安感を取り除き、お互いに信頼関係を築けるような病院になったらいいなと思います。



袋井市健康づくり推進員
内海 穂子さん
(袋井市愛野)

医療機器の紹介

6月と8月に契約した2種類の医療機器をご紹介します。

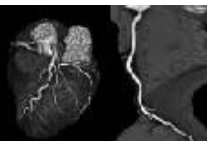
コンピュータ断層撮影装置(CT)

X線を放出する管球とその検出器が対となり、患者の体の周りを回転してデータを収集し、コンピュータで断層画像に再構成・表示する装置です。



CT イメージ

新病院で導入するCTは、画像の解析スピードが速く、鮮明な画像が得られるため、特に救急患者さんに有用です。



CT画像 イメージ

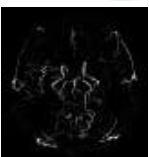
磁気共鳴画像診断装置(MRI)

放射線を使用せずに磁気共鳴反応を用いて、画像を作成する装置です。放射線を全く使用しない特徴があり、組織コントラストがはっきりする。ことから、病変がはっきり見える。こと、頭部や整形外科領域で良好な画像が得られることなどの利点があります。



MRI イメージ

新病院で導入するMRIは、現在発売されている中で最も強い磁気のものであるため、鮮明な画像が得られます。



MRI画像 イメージ